

研修だより

糸島市立一貴山小学校
平成28年11月16日(水)
学力アップ部

尾形先生ありがとうございました！！

【単元名】かけ算(1)

～ かけ算名人をめざそう ～

【本時の目標】

- かけ算九九のカードを使って、進んでマッチングをしたり、ゲームを楽しんだりする。(関心・意欲・態度)
- 問題の絵を見て、かけ算が適用できる理由を説明できる。(数学的な考え方)
- かけ算カードの絵カードと式カードをマッチングしたり、5, 2, 3, 4の九九を唱えることができる。(技能)
- かけ算の意味(何このいくつ分で全部の数を求める計算であること)を理解する。(知識・理解)

【本時の展開】

1 学習課題を確認する。

- (1) 既習の2の段～5の段までの九九を一斉に唱えて 復習する。

学習の流れがわかります。

- (2) 本時学習の流れとめあてをつかむ。

めあて

九九のカードでゲームをしよう。



2 九九のカードでゲームをする。

- (1) 1人で九九カードのマッチングをする。
- ・自分が挑戦している九九の段から取り組ませる。
 - ・手にしたカードの九九を唱えながら行わせる。

- (2) 九九のビンゴゲームをする

学習規律も整っています。

- ・2の段で行う。
- ・やり方とルールを説明する。
- ・提示したカードの九九をはっきり言わせる。

- (3) 5人で切り札ゲームをする。

- ・3の段のカードを使う。
- ・やり方とルールを説明する。
- ・自分が出したカードの九九をはっきり言わせる。

みんなで学び合っています。



3 学習のまとめと振り返りをする。

- (1) 練習問題をする。

- ①「2の3つ分」キャンディーを並べる。
- ②絵を見て、言葉と式で解答する。

- (2) 学習しての感想を発表する。

- (3) 個人目標について、自己評価・相互評価をする。



一人ひとりのふりかえりです。

【尾形先生の自評】

本時の目標について

- ・目標① 80%ぐらい
進んでゲームをしたり、楽しんだりすることができた。
- ・目標②③④ 60%ぐらい
カードと式をマッチさせたりしながらするゲームを仕組むことでかけ算の意味や数学的な考え方の部分を高めたかった。全員が理解したとはいえない。



指示は短く的確にされます。

【協議会で話し合ったこと】

意見・感想

- ☆練習問題はいくつ分は難しかった。
- ☆2の3つ分のあめを並べる→正解でもよかった。「できる」ことが「わかる」ことにつながるから。
- ☆自閉症の子どもは、「はい・いいえ」で答えられるようにしたほうがいい。
- ☆学習の流れが掲示してあって見通しが立ちやすい（クリアー）
- ☆一人でマッチング→ビンゴ→切り札ゲームと段階的な学習が設定されていた。
- ☆5人がとても落ち着いている。一緒にできるように内容が工夫されている。
- ☆絵→言葉→式に結びつかせるためには繰り返しが必要だと感じた。

【校長先生の助言】

尾形先生のよさ

- 優しい言葉かけ→子ども達の安心感につながっている
- 子ども達が集中できるような環境づくりをしてある。
- 例 すっきりした教室・学習のめあてが1つ（シンプル）
本時の流れが一目で分かる（クリアー）
具体物などがある（ビジュアル）
子ども達が発言している（シェア）

学級経営で大切にしたいこと 資料より

- 行動に対して適切な評価を行うこと
- 些細なことでもほめる 認めること
- 居心地の良い場所、存在感のある場所であること
- 誰にも分かりやすく、安心して参加できる教育環境をつくる**

そのために

学習指導 →どの子にも学ぶ喜び、分かる楽しさを感じ得させ、確かな学力が身に付いていく授業づくり

生徒指導 →一人ひとりの自己実現を図り、自己有用感をたかめる教育活動

尾形先生お疲れ様でした☆

いつも穏やかで、やさしい声かけをされる尾形先生。昨年度もきらり学級の授業を見せていただきましたが、改めて感じさせられたことは「授業の進めかたを工夫する」ということです。今回の授業でも段階的なゲームがあり、子ども達が集中して取り組んでいました。

最近「授業UD」という言葉をよく聞きます。授業UDとは授業のユニバーサルデザインのことで、言わば「特別支援教育の視点を活かした授業づくり」のことです。この視点を活かすことで子ども達が「深くわかる」「より上手にできる」ようになります。シンプル・クリアー・ビジュアル・シェアとよく言われますがこの視点を少しでも日常の授業にと入れたいものです。とくに「シェア」では主題研で「対話」を大切にしているのでこだわっていきたいです。ある子の発言の続きを他の子が説明する。ある子の発言の意味を他の子が解釈して説明する。このようにして話し合い活動を組織していくことが、全員の理解を促すことになります。